



# 福王寺だより

今年も、コロナの対応も代わり、変化の年になりそうですね。

福王寺では令和9年に百周年を迎えることとなり、現在「**百周年実行委員会**」を設立し、先人たちに感謝し、今後もお寺が皆様の心の支えとして、あり続けるために事業内容を検討したものをお配りし、皆様のご協力をお願いする準備をしております。

大きなお願いとなりますが、仏様、お寺のご縁、ご先祖様のご縁、様々なご縁に対して、お力添え頂ますよう、お願い申し上げます。



## 祈りの連鎖

「白洲正子 十一面観音より」

・・・案内を乞うと、年とったお坊さまが出て来られた。十一面観音を拝観したいというと、黙って本堂の方へ連れて行ってもらった。

本堂といっても、ふつうの座敷を直したもので、暗闇の中に、大きな白いお地藏さんが座っていた。「これが本尊だから、お参り下さい」といわれ、拜んでいる間に、お坊さまは雨戸をあけて下さった。さしこんで来るほのかな光の中に、浮び出た観音の姿を私は忘れることが出来ない。

それは今この世に生れ出たという感じに、ゆらめきながら現れたのであった。その後何回も見ているのに、あの感動は二度と味えない。世の中にこんな美しいものがあるのかと、私はただ茫然とみとれていた。

観音様は本尊の隣の部屋に、お厨子ともいえない程の、粗末な板囲いの中に入っておられた。その為に膝から下は見えず、和辻さんが讚美した天衣の裾もかくれている。が、そんなことは少しの妨げにもならなかった。私が呪縛されたように動かずにいるのを見て、住職は後の縁側の戸を開けて下さった。

くずれかけた縁へ出てみると、後側からは全身が拝めた。私はおそるおそる天衣の裾にさわってみて、天平時代の乾漆の触感を確かめてみた。

それは私の手に暖かく伝わり、心の底まで深く浸透した。とても鑑賞するなどという余裕はなく、手さぐりで触れてみただけである。それが



十一面観音との初めての出会いであった。

じんわりと感動された様子が思い浮かびます。千年以上前の仏様が語りかけてくる。

そんな仏様の前に自分を置いて、ただただ仏様と向き合い、融合していく。

ある研究によると、感動することはとても健康によく、心に良いと言っています。

寺院についても書かれており、そして私達に何か変容をもたらすという事をいっています。

祈りって不思議ですよ、自分が祈っているのか、仏様に祈られているのか。

自分を超えた何かと向き合うことなのかもしれません。

福王寺も百周年を期に本尊像を造立し、これからもずっと拝まれる仏縁を設けようと企画しております。

お寺に来ることで、感動し、こころが良  
い意味で変わっていく。

そんな場所となること  
が、祈りがずっと続いていく連鎖する場所であ  
ってほしいと思います。  
合掌



## 行事のご案内

### 「春下座行」

四月二十三日

午前八時三十分

於 津別町福王寺

※お寺の掃除にきてみませんか？誰でも歓迎です。きれいな境内は、お参りに来た方を快くします。皆様の力で功德をつみま  
しょう。

令和九年に福王寺は百周年を迎えます！

「福王寺八十八カ所霊場

山開き 並 毘沙門天祭」

五月十日 十時より

於 津別町福王寺

福王寺境内の八十八カ所霊場を巡拝します、春を感じ、お寺の八十八ヶ所を参拝しませんか？  
また福德の神、毘沙門天様のお参りを致します。  
福がありますよう、ご一緒に願いましょう。

「誕生会 高野山参拝」

六月十四日～十六日

二泊三日で高野山へ参拝します。

今年は、弘法大師が生まれて千二百五十年！ぜひ参拝いたしましょう。

締切は四月末です。是非お申し込みください！